

11

高脂血症について

医療の
小ネタ

どの世界にも細かいことを言う人がいまして、HDLコレステロールのように低いと問題になる脂質もあるのだから、高脂血症ではなく脂質異常症とすべきだとか、善玉・悪玉コレステロールという言葉は使うべきではないとか、色々と喧しいことです。このサイトでは患者さんの分かり易さがすべてですから、これからも高脂血症で行きます。



高脂血症の圧倒的主役は「悪玉コレステロール＝LDLコレステロール」です。これが高い状態が続くと動脈硬化が進行するからです。様々なタイプがあり、中には、無治療放置した場合80%の患者さんに心筋梗塞が起こる「家族性高コレステロール血症Ⅱa型」という、急いで治療を始めなければならないケースもあります。

昔は大掛かりな透析で、血液中の悪玉コレステロールを定期的に取り除くような治療法しかありませんでしたが「スタチン」が登場してから高脂血症の治療法は一変しました。ちなみにスタチンを発見したのは日本の遠藤章博士です。人類を救う大発見なのに、なぜノーベル賞を受賞できなかったのか、はなはだ疑問です。

スタチンと言えば横紋筋融解症がよく話題となります。頻度を%で表示することが出来ないほど稀な出来事ではありますが、極めて重大な副作用です。スタチンの使用当初にはCPKやGOTなどの筋逸脱酵素を測定して、それが高値を示す場合には服用を中止しなければなりません。《続く》

11

高脂血症について

医療の
小ネタ

《続き》

患者さん方がしばしば混乱するのが、LDLコレステロールの正常範囲です。人間ドック学会では119以下とされていますが、それがすべての健診に当てはまる訳ではありません。

例えば千葉市の基本健診では139以下が正常範囲と設定されています。さらにそれを超えても、すぐに薬剤を用いる訳ではありません。150を超えた状態が続くと動脈硬化が進行しますので、現場はそれを見極めてから薬剤治療を開始します。



人間ドック学会としては早めの注意喚起をしているつもりなのでしょうが、最近は少しでも正常範囲を超えると過剰に心配する方が多いので、現場は説明に多くの時間を割かなければなりません。

似たようなことは、糖尿病の指標であるHbA1cでも見られ、人間ドック学会は5.5以下を正常としています。千葉市の基準では6.2までが正常範囲です。

糖尿病に関しては不安の度合いが高脂血症よりも強いので、現場はさらに振り回されることになります。

